ボラは何回までの連続したジャンプができるか？

Shin KUBOTA: How many times mullet can jump sequencially?

久保田　信

海面から空気中へジャンプする魚類は、滑空することでよく知られたトビウオはさておき、マダラトビエイやオニイトマキエイ（マンタ）などが知られている（西田, 1996）。身近な魚で頻繁にジャンプが見られるのは、ボラ *Mugil cephalus cephalus* である。ボラは、刺し網や船などをさけてジャンプすることも記録されている（瀬能, 1998）。

これまで和歌山県白浜町の京都大学瀬戸臨海実験所の前浜や瀬戸漁港などを中心に日本各地で数百回ほどのボラのジャンプに遭遇し、何度まで連続してジャンプできるのか回数を数えてきたが、3回どまりがほとんどであった。稀に5回のジャンプを数えたこともあったが、遠くでのジャンプなので本当に1個体が連続してやったのか確信がもてないままである。しかし、今回、4回の連続ジャンプが目前で見られたので確実な最多回数として報告する。

2006年8月24日18時20分頃、日没まじかでほぼ満潮時に、京都大学瀬戸臨海実験所北浜の渚線より数m先の海面より、体長約50 cmの個体がジャンプを突然に開始した。渚線より約45度の角度で湾奥に向かってほぼ等間隔の距離（約1 m）をおいてほぼ直線的に4回の連続ジャンプを1分ほどの間に終了した。高さはいずれも数十 cmであった。この連続したジャンプの理由としては、渚線付近を歩く筆者の存在に驚いて逃避した可能性もあるが、海中や空からの天敵に追われていることもなく、ボラの一般的な性質により、たまたまこの時間帯に連続したジャンプをしたのであろう。

引用文献

瀬能　宏. 1998：ボラ亜目・ツバメコノシロ亜目，In “日本動物大百科，第6巻，魚類” pp. 142-143. 平凡社，東京.

西田清徳. 1996：トビエイ亜目, In “日本動物大百科，第5巻，両生類・爬虫類・軟骨魚類” pp. 172-176. 平凡社，東京

京都大学フィールド科学教育研究センター
瀬戸臨海実験所
（〒649-2211　和歌山県西牟婁郡白浜町459）